

令和4年度 「組織運営自己点検・自己評価結果」の要約

①自校評価（昨年度）

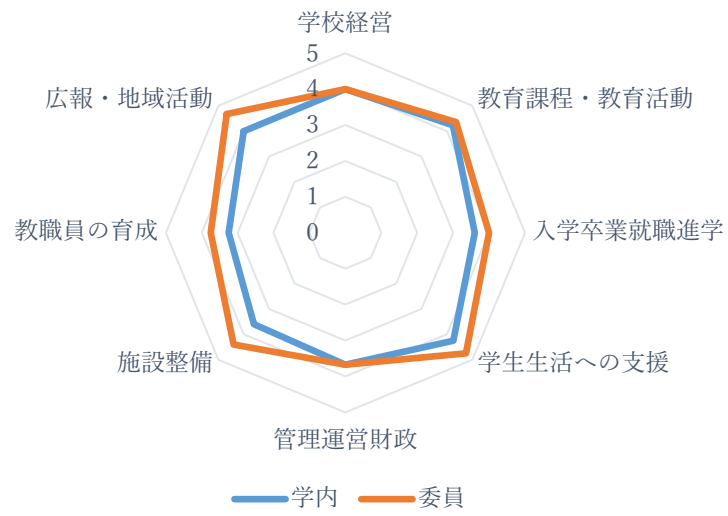
②学校関係者評価委員（昨年度）

（5段階評価）

大項目	評価	評価および次年度に向けた課題
I 学校経営 (4項目)	① 4.0 (4.25) ② 4.0 (4.25)	令和4年度も、前年度の自己点検・自己評価の結果を踏まえ取り組んだ。重点目標及び計画の実施は其々の評価を定期的に行い、PDCAサイクルを循環させながら学校運営に取り組むことができた。今年度は新カリキュラムが開始となり、教職員はディプロマポリシーの到達に向けて学生の自主性や意志を引き出す関りへの意識を高めるよう取り組んだ。しかし、職員個々の評価では「活動に活かしきれない部分があった」という意見が多かった。今後も各会議、自己点検・自己評価の他、多くの評価結果を活用しつつ、職員の学生への関りの意識を高め教育活動を継続していく。
II 教育課程・ 教育活動 (13項目)	① 4.23 (3.71) ② 4.36 (4.0)	新カリキュラムで掲げたディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーを連動させた取り組みを開始した。新カリキュラム作成時から意識してきたため、実施については意識を高く取り組むことができた。教育課程を評価するアセスメントポリシーも検討を行い学生や職員の調査を実施しながら確認が行えた。調査することが振り返りとなって意識を再確認することに繋がった。講義や演習、実習においても教育方法を工夫して取り組んだ結果、コロナ禍であったが卒業生の看護実践力自己評価では高評価を得ることができた。外部講師、実習病院、その他多くの施設の方々のご理解によって支えられている。
III 入学・卒業 ・就職・進学 (5項目)	① 3.6 (3.75) ② 4.0 (4.25)	卒業生35名、関連病院への就職は85%、国家試験は100%合格することができた。就職や国家試験への支援は今後も継続し行っていく。一方、今年度の学生募集は、オープンキャンパスや高校訪問、ガイダンス参加などを積極的に行ったが、定員数の確保はできなかった。少子化、大学志向などの影響が大きく、看護専門学校への進学希望者が減少傾向にあると思われる。この傾向の中で受験生に選ばれる魅力ある学校としての改善とアピールについては今後の課題である。次年度も対策を立てて取り組んでいく。
IV 学生生活 への支援 (4項目)	① 4.25 (4.5) ② 4.75 (4.5)	経済的支援は高等教育の就学資金制度、教育訓練給付金、関連病院からの就学資金などを活用できる体制を整え、個別の状況に応じた支援を継続して実施している。健康面については健康診断後のフォローや自己管理などを、健康手帳を用いて行っている。学習支援としては、入学前プログラムや「学習アドバイス会」による学生間での学び方の共有などを継続し学習に関する機会を多く提供した。サークル活動などは自粛傾向にあったが、募金や全国合同消防訓練等に参加することができた。今後も安全で生活しやすい学習環境にできるよう学生意見を取り入れながら取り組んでいきたい。

V 管理運営 ・財政 (3項目)	① 3.67 (3.67) ② 3.67 (3.67)	組織のDX化という背景もあり、学生管理システムやGoogleでの連絡調整などが、昨年度よりはスムーズに活用できるようになった。学校全体のWi-Fi環境を改善し電子テキストの使用開始のための環境整備も整った。今年度は国家試験等に関連して教育支援システムの活用に取り組んだが、学生個々の傾向が様々で明確な成果は得られなかった。シミュレーション教育などへの取り組みも準備段階を脱していないので、今後も継続して取り組んでいく。 学生や教職員等の個人情報保護やハラスメント対策、文書保存、管理に関するマニュアルの作成については、新たな着手ができなかったため情報リテラシーやモラルハラスメントなどを視野に入れてガイドラインの作成に取り組む必要がある。
VI 施設設備 (5項目)	① 3.6 (4.4) ② 4.4 (4.4)	アセットマネジメントに基づいて、校舎外壁工事等を実施し校舎の安全点検、修理等を計画的に、安全に実施できた。老朽化に伴う修理箇所についても発生後速やかに対処し、スムーズな学習環境の維持ができた。学生が個々に学内で学習しやすい学習スペースの確保も行え、個人学習が行いやすくなった。シミュレーション教材の活用については教員間で更に充実できることが今後の課題である。 防災訓練については、今年度も火災に加え、津波避難と安全な帰宅について全学生でプロジェクト学習に取り組んだ。
VII 教職員の 育成 (4項目)	① 3.25 (4.5) ② 3.75 (4.5)	今年度も教員の研修は予算を確保し、リモート参加であったが全教員が希望した研修に参加することができた。教員間での学びの共有や研究授業などは中々実施できず課題となっている。教員の教育力向上は必須の課題となるため、本校の現状に合った改善策を検討したい。今年度は、教務主任養成講習会に1名が参加できた。次年度も継続して2年目の研修を受講する。
VIII 広報・地域 活動 (3項目)	① 4.0 (4.0) ② 4.67 (4.67)	今年度は広報担当者を中心に、ホームページでの近況報告コーナーを定期的に更新でき大変充実できた。学校だよりや関連の地域広報誌でも学生の学びの様子を掲載して頂いた。また、タウン誌などにも情報提供を行った。 学生は、文化祭やサークル活動が自粛傾向であったが、募金活動や要請のあったボランティアなどにも参加し交流を深めることができた。教員も地域から要請があった「出前授業」などを行い、数回程度ではあったが、地域の方々の要望にお応えすることができた。今後もこのような機会を大切にしていきたい。

令和4年度、自己点検・自己評価結果



令和4年度卒業生のディプロマポリシー自己到達評価 (5点評価)

実践する力		平均値
1	感じる力・考える力・伝える力・振り返る力を活用し思考しながら、看護を必要とする人々にとって最適な看護とは何かを創造し、実践につなげている。	3.91
2	実践した看護実践を振り返り、更により良い看護を探求する。	4.17
3	状況に応じてアセスメントし、健康状態の変化、リスクを判断する。	3.86
思いやる力		
1	自己を顧みて、ありのままの自分を受け入れる。	4.14
2	相手の立場に立って、相手の状況や感情を理解する。	4.09
責任と役割を果たす力		
1	看護専門職者として、人の生命(いのち)をかけがえのないものとして尊重する。	4.66
2	看護専門職者として、あらゆる人の権利を尊重する。	4.51
3	看護専門職者として、状況に応じて良識のある行動をとる。	4.34
4	看護専門職者として、自己の力量に応じて判断し、その時の裁量を考えて行動する。	4.14
地域社会に貢献する力		
1	地域における看護専門職者としての役割を理解する。	4.11
2	地域の特性を知り、その地域で暮らす人々の生活に適した健康支援の在り方について考える。	4.03
3	地域における保険医療福祉チームの一員として情報交換する。	3.91
4	多職種の機能、役割を理解し尊重する。	4.34
看護を探求する力		
1	看護を取り巻くあらゆるものに関心を持ち続ける。	4.26
2	これまでの学校経験を踏まえて、自己の看護観を明確にする。	4.20

看護師の実践能力 (4点評価)

平均

I群 ヒューマンケアの 基本的能力	A	対象の理解	3.36
	B	実施する看護についての説明責任	3.39
	C	倫理的な看護実践	3.85
	D	援助的関係の形成	3.46
II群 根拠に基づき看護 を計画的に実践す る能力	E	アセスメント	3.3
	F	計画	3.41
	G	実施	3.44
	H	評価	3.41
III群 健康の保持増進、疾病の 予防、健康回復に関わる 実践能力	I	健康の保持・増進、疾病の予防	3.29
	J	急激な健康状態の変化にある対処への看護	3.29
	K	慢性的な変化にある対象への看護	3.35
	L	終末期にある対象への看護	3.5
IV群 ケア環境とチーム体 制を理解し活用する 能力	M	看護専門職の役割	3.71
	N	看護チームにおける委譲と責任	3.58
	O	安全なケア環境の確保	3.59
	P	保健・医療・福祉チームにおける他職種との協働	3.65
	Q	保健・医療・福祉システムにおける看護の役割	3.38
V群 専門職者として研鑽し続 ける基本能力	R	継続的な学習	3.77
	S	看護の質の改善に向けた活動	3.79
			3.50

全73項目の平均 3.48

令和4年度カリキュラムポリシー、1年次生と教員の実施後の評価結果

番号	内容	教員自己評価	学生評価
1	看護を、エビデンスをもって思考できるよう、形態機能学、病態生理治療論、看護方法の科目が関連付けられて、時間割配置されている。	2.77	3.02
2	看護実践力を身につけるために、難易度に応じて段階的に演習、実習が配置されている。(担当している内容の進捗配置も含む)	3.00	3.2
3	カリキュラム、及び担当教員として学生が自ら、主体的に学べるよう、様々なアクティブラーニングを活用している。	3.00	3.37
4	カリキュラム、及び担当教員として、学生が他者を尊重し、思いやる心が育つために様々な人との交流の機会を作っている。	2.83	3.34
5	カリキュラム、及び担当教員として、看護専門職者として倫理観を養うよう、学生の体験を共有する機会を作っている。	2.85	3.44
6	カリキュラム、及び担当教員として、看護専門職者としての自覚を育むよう、他者と協働した役割遂行を支援している。	2.85	3.46
7	カリキュラム、及び担当教員として、地域の人々や暮らしを理解するよう、学習の場を拡大している。	2.69	3.41
8	地域で暮らす人々を支援するために、多職種連携教育を取り入れている。	2.31	3.51
9	学習者として自己成長していくために、様々な経験の振り返りを促している。	3.00	3.34
平均		2.81	3.34

